

海防古記

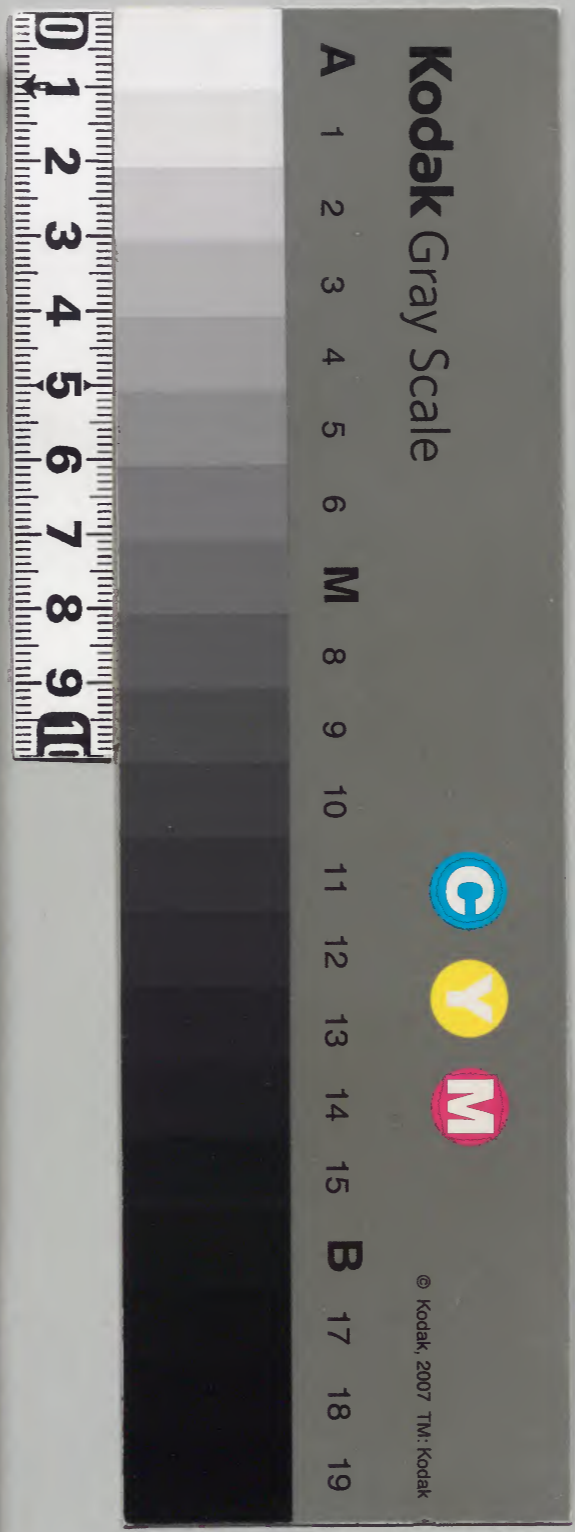
内務省圖書
 第一〇九八六號
 知事部地理類
 函
 冊

和書門
 二九二七
 一七八
 八二一
 冊架函號類

内閣文庫
 和書
 二九二七
 八二一
 冊架函號類

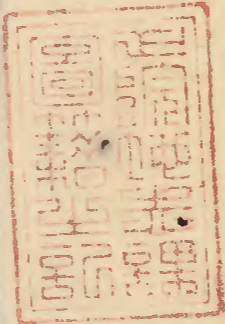
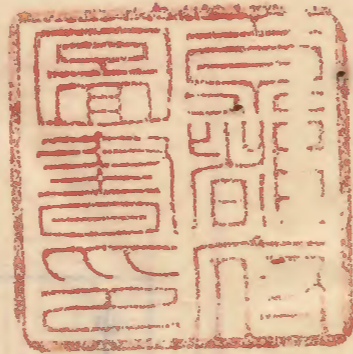
内閣文庫
 番號 和 29278
 冊數 8 (1)
 函號 175 100

地
 四
 六



裏面記載のない箇所は省略

内件



高知縣出所、新撰佐度風土記一本ハ其書ノ剛
定ニ外ニ人頗詳密ナリ此編ソノ初稿ナリト根
一ニニシテ授心セザルヲ書ニテ他日此書ヲ讀人ニ告

朽木文庫

圖書局
文庫

日政
本府書



雜大郡百一十村
加茂郡百二十村
羽茂郡六十村
外
市赤平比小五村



内閣
文庫

一 佐渡回

回り六十里 橋十三里

佐渡より以橋と南北
小川が東佐渡多と東西

一 奥湊浮

回り六十八町三丁
里一里ナセ丁
橋十八丁
橋長十七丁

浮と天玉の下の岩押回
湊町の落着付と
幅一丈

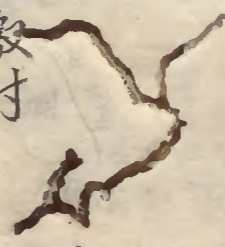
回り村と八ヶ村

東里 浮信 浮之 落着
谷屋 四角 舟代 長江

湖の泥岩所 岩記の西一カ所

一村教武百六十三ヶ村

外小北殿村



口

七ヶ村

羽田

八ヶ村

免地

八十四ヶ村

大野

二十九ヶ村

小本

一村 沖林二百七十六ヶ所

一回百始持林之六百六ヶ所

一 八幡堤

堤長百七十五
横三丁四丁
橋長一丈

一 五ヶ津六ヶ所

以限 奥湊 以之橋 舟泊 小本

一 浦之十ヶ所

一 二受 法橋 浦 宿根木 腰細 尾戸
此浦 水津 大川 羽二生 浦川 笠巻
下 姫侍 志文川

一 相川町 教七十一丁

宝曆二年改

一 同 同七十六丁 内 留部丁 柏原丁
津島丁 衣丸丁
本町丁 町 町

一 同 津六丁所

海舟 大方 枚石町 羽田 丁

一 相川寺 七十七丁

三丁寺 町家

万福院

一 信少寺 一向宗 内少寺 西門 流
入少寺 高宗
内 信九寺 浄土宗
信少寺 浄土宗
九少寺 天台宗
信九寺 四道宗

友成院
本昌寺
浄智寺
友成院
地所

一 同 宮九社

天祚宮 赤土町 大山徳 上町 全比居 高倉丁
八幡 山津 凡宮 第丁 巻岩 山津
大山徳 日所 巨龜 宇次 天神 第丁

一 同 菅寺 山津 観音堂 大寺寺

一 同 中寺 四百三十八丁

一 八十八年 律宗
九ノ年 天台宗
信武ノ年 時宗

二 百六十九年 高宗
十ノ年 清宗
信武ノ年 日蓮宗
二十七ノ年 一向宗
三十一ノ年 小比叡山蓮花蓮寺ノ家門位

一 同百八十八年 信二ノ年

宮三ノ年 社

堂百六十九年

一 堂教二百信武社

一 堂百六十九年

相川
中
同

一 國中人數寄

一 總人數九万六千九百八十九人

男 九千六百八十八人
女 四万六千二百八十九人

此

計 万九千六百三十三人

男 一万六千三百七十八人
女 三千四百五十五人

計 万六千二百八十六人

男 七千六百七十八人
女 七千六百八十九人

相川中
信武人家門
根出中少全

三万九千二百六十七人

羽後郡

男九千七百七十八人
女九千六百六十八人

三万九千六百八十八人

加茂郡

男二万六千三百三十八人
女一万三千三百五十八人

二千七十八人

山中江山伏家内人殺

男六百八十八人
女六百八十八人

一 狛中家殺 三万七千三百三拾九人

年一萬歳

一 馬殺子九百九十九人

男

一 牛殺六千九百八十九人

男

一 河改家百拾六人

男三十三人
女七十三人

一 河花武十一人

山金藏	武所
山銀藏	武所
山新藏	武所
山新藏	武所
山新藏	武所
山新藏	武所
山新藏	武所
山新藏	武所
山新藏	武所

右是延延享二乙丑年改之通記

九ノ...

桐舎部

出西... 百ノ...

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

依渡風多紀卷之一

目錄

依渡回人之始每福化之事

當國忠結多之事

同九社之事

同定部之事

性者尚小定死比更

友尔仲光流罪之事

于春流罪之事

一高玉人の始は人王二十九代天智天皇乃河守

公佐回山守りし不此水樂又之属し以農人而妻

と離列し後妻と為る本妻し之物とりふ

男子あり後母の泣きし高島かかひ其母泣き

とぞ怨しみし紐之床し淋涙ありしと流し送る

行りし高玉を流し別れ又いふる子細し信也

公より一人妻女を流し是は高回押流し其

日録

高玉人の始は人王二十九代天智天皇乃河守

風土記卷一

佐渡玉人より始は福化事

延喜三十四年正月十四日

一高玉人の始は人王二十九代天智天皇乃河守

公佐回山守りし不此水樂又之属し以農人而妻

と離列し後妻と為る本妻し之物とりふ

男子あり後母の泣きし高島かかひ其母泣き

とぞ怨しみし紐之床し淋涙ありしと流し送る

行りし高玉を流し別れ又いふる子細し信也

公より一人妻女を流し是は高回押流し其

うりし、種かくりて色まゆのゆとけりや
にまゐるとまゝ来て此のあしきへりかきく福
生しし事実のさしり女に種くるとか咲早
福くし男に種くるとか種とゆふも今にま
信成福のふ名くさる

或はし、四十七代元明天皇の和洞六子育
よの白月御賀良長とふと開奉りふ又
庭とてあましりまきし牌儀へ揚るる事
帰るるもふゆに託し初洞えり

風 年代記小治政天皇六の申子三月依波小

有鬼魅く云同集に聖成皇帝六年十
八年二月に誠後玉と刻く依波園とて
日少記く尚小と名付て惣家ツニナリとあり
當園結とて事

延喜式西暦年とて二十九年

一人皇比山太権現 本記の軍也記

別高ふえり付 真光寺

一人皇四十二代文武天皇え丁酉年山室山所堂は
中男一のふ山くま娘に終此處はけりし
抑うけりて難々の海にふる位濃る是と遠く
千時よりなる十節水く流りしよりいふ念

高野山門之冠たる今世

大樹公乃 在余小くはし所修造と四つふふ

南の辰年其宮のよりのもりふん

一別南 貞光寺

南の辰に二年卯年建を寺所六十石一畝深き外

又羊畑三ヶ一もくはり

所蔵七ヶ一もくはり一宿所修造礼を勤格句了末寺の

院敷十ヶ一もくはり寺若此院除

今此山は堂所修造

一十時より初号大久保石んふ 田辺十郎公也

一寛永元甲子年より同り 徳目市乃也

一延享六辰年六月西遊を南ふり文記 治也之寺九高

一延享六辰年六月西遊を南ふり文記

をよ友の帝也

當國九社之事

一南ふり社より人の王六代延喜帝 醍醐天皇の御

大小乃神地三千二百余座と四十六ヶふり

ふり社より江の敷とまきふり

徳産とまきふり社より田の社より

社より社より

延喜の四年

これハ因流と院イナリハ小江

度津神社

羽原ハノハラ 飯島村

一宮 六十権社イッタクケンサ

列島レイシマ 神宮寺

日本記和解 曰素多島尊其子六十権社と

師シ新羅本ニホノ初之六十権社天降

中臣の時多し附従とて帰るに終

韓比カンヒ一強ツヨク持帰る多し函コト能事

より始りて大洲の坐れ福強コキウと云ふ

かきと云ふと云ふけ多六十権社と

祢ネ有切乃社ウキノ名

渡津大明神ワツ

飯島村

大目神社オホメ

大目川大明神

吉島村

引田大明神

金丸村

物部神社モノベ

小倉村

伊食神社イシキ

後山村

飯持神社

河内村

天下此人小入穀とありて牛とと扱け海川の

高とありてくまふ社

橋八村

緋友神社ヒト

緋友神社ヒト

大急村

神代

三無の神乃とく一と益人此

少多らとらけや

天地乃や

所余外乃とてしりせれ人

神事乃神代

以と九社

尚回定部境事

一尚玉部境乃の事

之年曆ホ流迹

以の代

伊丹彦人

羽衣部

雜大部

ソウトク白木

瀨ハ

雜大部

ハ

成

神嘗成 亥の柱 若瀨 是も 卯辰と
卯辰部

又源 唯 名 氏 聚 にも 尚 小 部 境 乃 多 有 たり
記入

羽茂部 誠コニタ之 大目カサ 跡太タ八ハ桑ス也ニ波

以ヨリ前マキ 葛クワ葉エ 呈シ誠マコト 保ホ古コ 多タ部ブ 保ホ古コ

水添 吳ミ金ネ也

雜太郎 是 石田 子 知 八 多 竹田

佐波 多 小野

如 茂 部 井 栗 卯 辰 部 知 大 北 佐 為

村 組 の 依 由 洗 里 香 依 少 文 氏 記 之 羽 田 組

大 組 大 野 組 小 由 組 中 東 組 大 組 之 湯 谷

小 川 東 田 屋 屋 町 小 代 多 田 屋 有

少 文 氏 代 り 若 林 六 氏 與 相 同 八 四 月

村 始 依 部 始 羽 茂 河 始 依 根 城 始 羽 茂

河 始 漆

武 洗 小 屋 屋 居 士 之 保 保 保 之 保 保

尚 小 之 保 保 一 小 一 部 小 之 雜 太 郎 之 号

保 之 村 の 始 保 保 保 之 保 保 保 之 保 保

辛酉四月令難之並に母羽族二部より

一天平橘室に壬辰年九月渤海使朝正將軍

幕施家等より舟漂志法及依波依く同日

計因の子復一人サツクハシテ並に

注首定為小死地より

延喜三丙寅年と云ふ年

一抑在回を流の地と云ふより續日本紀曰人王

四十六代景武天皇神武天皇甲子年三月詔武小孫

と云ふよりついで勅定するを國と號するは伊賀安

房常陸依波依波と傳けしと云ふとを流の地と云

ふ又流依波を中流と定められ誠哉安室と

を流の地と云ふと云ふ國益南云々及人其より云

すこと其初に於て因河天皇十一年甲子年十月

詔橘王女小依く作也朝臣東女と為るに流罪の

一の事是又流人ありの始の事は後四十六代孝

謙帝室字元年丁酉七月安宿王及妻るに流罪の

流一の事是科に但東女下は同也是は後

四十六代流罪の

藤原仲光流罪の事

一 仲之り事流罪の事 延喜元年 曆行此の事未考

尚 國流罪の事 延喜元年 此の人 再居れ 尚考

人 居れ 心小く 人 命と 考 留て 人 仲と 示 今 考

考 留て 人 仲と 示 今 考

考 留て 人 仲と 示 今 考

考 留て 人 仲と 示 今 考

一 十時 田原太郎 相模女 流罪 府將軍 延喜元年 考

流罪 下 武 延喜元年 考

奥列 秀 例 此の 十時 考 九代 十時

六十歳 考 由 比 御 房 生 捕 後 流 考 延 喜 元

由 緒 考 十時 但 十時 科 考 延 喜 元 考

罪 考 延 喜 元 考

流 考 延 喜 元 考

十 時 考 延 喜 元 考

考 延 喜 元 考

考 延 喜 元 考

考 延 喜 元 考

十 春 流 罪 考

十 春 流 罪 考

一 千春友原秀乃二習乃江列の口と成と世

千とまのまの深りの上と字と一と日南と流罪

渭の人王六十と代次泉院安和二己巳年依列

流罪此科の村と天皇の御座小とりて次泉帝

流罪とて詳に時友原の實科授政とて源

言明友大信友東源尹右大臣具職少少定りて

平とて元とて平とてりりて元とてりりて

友大信言明公の山塔なりて本時泉帝武政り

取氣の山とてりりてりりてりりてりりて

法江の礼幣ふと典葉の口とて制とてりりて

流不叶いと流はりりりて流因東宮と定りて

右右乃大臣源ま波の門行とてりりてりりて

とりりてりりてりりてりりてりりてりりて

とりりてりりてりりてりりてりりてりりて

とりりてりりてりりてりりてりりてりりて

とりりてりりてりりてりりてりりてりりて

とりりてりりてりりてりりてりりてりりて

とりりてりりてりりてりりてりりてりりて

とりりてりりてりりてりりてりりてりりて

とりりてりりてりりてりりてりりてりりて

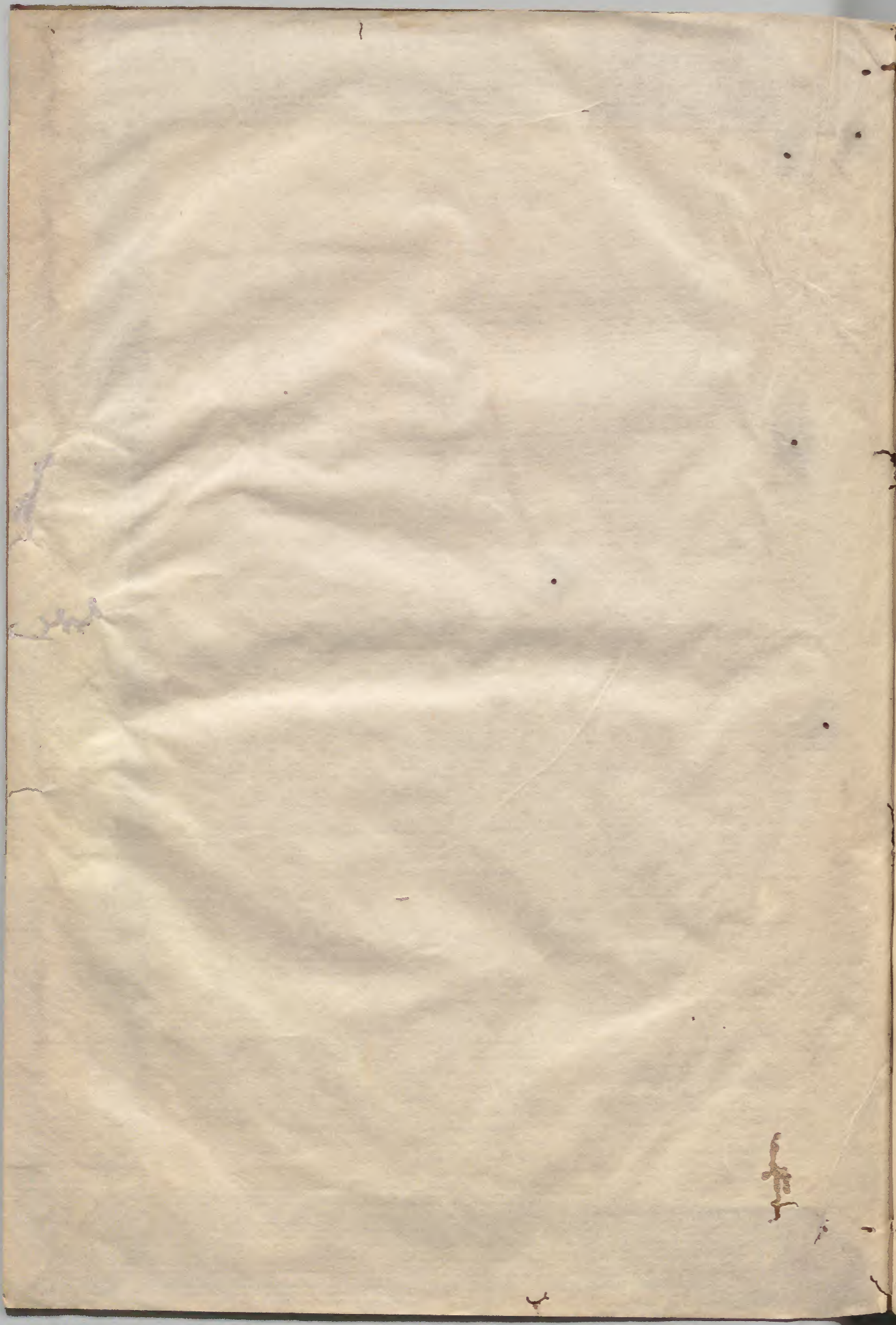
とりりてりりてりりてりりてりりてりりて

とりりてりりてりりてりりてりりてりりて

守年と押下〜憲程の流罪〜守年と
ん〜企の安程の令身卿尹汝り〜守年と
と人止り〜守年と〜養〜守年と
送難〜守年と〜明と大筆此権の卿〜守年と
〜守年と〜守年と〜守年と〜守年と
初と家〜守年と〜守年と〜守年と
〜守年と〜守年と〜守年と〜守年と
た〜守年と〜守年と〜守年と〜守年と
守年と〜守年と〜守年と〜守年と

春の伴形〜守年と〜守年と
早迷押〜守年と〜守年と
守年と〜守年と〜守年と〜守年と
守年と〜守年と〜守年と〜守年と

羽忠乃守年と〜守年と〜守年と
井年と〜守年と〜守年と〜守年と
守年と〜守年と〜守年と〜守年と
守年と〜守年と〜守年と〜守年と
守年と



風土記卷一

[Faint, illegible handwritten text in cursive script, likely bleed-through from the reverse side of the page.]

